

令和 5 年 5 月 30 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13236

研究課題名（和文）タンデム学習のためのLog Bookの開発

研究課題名（英文）Logbook for Tandem Learning

研究代表者

脇坂 真彩子（Wakisaka, Masako）

九州大学・留学生センター・准教授

研究者番号：90750662

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、異なる言語を話す2人が互恵性と学習者オートノミーの原則に基づいて互いの言語や文化を学び合うタンデム学習の効果を高めるために、Logbookを開発することである。本研究の成果として、日本語・ドイツ語・英語で使用できるタンデム学習のためのLogbookアプリを開発した。また、このLogbookアプリをドイツ-日本でのEタンデムの実践に導入し、それが学習者の学習に対するリフレクションをどのように深めたかを記述した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

タンデム学習は1960年代後半からヨーロッパを中心に実践され、1990年以降のグローバル化の加速とIT技術の進歩によるCMCの日常化を背景に発展し、近年日本を含む様々な国で広がっている。タンデム学習には様々な学習上の効果があることが明らかにされているが、学習者2人が長期間に渡り効果的に学習を進めるためには、適切なサポートシステムの構築が必要である。本研究はその鍵となるリフレクションを促すためのLogbookを開発し、その効果を検証したという点で意義がある。このLogbookの使用により、今後タンデム学習を行う学習者がより効果的に学習を進めることが可能となると思われる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to develop a Logbook to enhance the effectiveness of tandem learning, a method in which two speakers of different languages learn each other's language and culture based on the principles of reciprocity and learner autonomy. As a result of this research, we developed a Logbook app for tandem learning that can be used in Japanese, German, and English. Furthermore, we implemented this Logbook app in a German-Japanese e-tandem practice and described how it deepened learners' reflection on their learning.

研究分野：日本語教育

キーワード：Eタンデム 学習者オートノミー 学習ログ 相互学習 ポートフォリオ 日本語学習 ドイツ語学習  
学習者同士の学び合い

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

タンデム学習とは異なる母語を話す2人の学習者がペアになり、互恵性と学習者オートノミーを原則として、互いに得意な言語や文化を学び合うという学習形態である(Brammerts & Little, 1996)。1960年代後半に、戦後のドイツとフランスの和解という政治的文脈で行われるようになったとされるが、その後、ヨーロッパの統合とそれに伴う言語政策の影響や、当時主流だったコミュニケーションアプローチの影響を受けながら、ヨーロッパを中心に様々な場面で実践され、発展してきた。さらに、1990年代以降にはIT技術の進歩とインターネットの急速な普及によるCMC(Computer-Mediated Communication)の日常化に伴い、インターネットを介して学習者2人がやり取りを行う「Eタンデム(eTandem)」へと多様化した。そして、グローバル化の進展による国際人口移動の増加とIT技術の進展を背景に、ブラジルやオーストラリア、アメリカ、カナダ、中国、韓国など、ヨーロッパ以外の国々にも広がり、外国語教育・外国語学習に活用されるようになった。日本においても、国際化を背景に、近年、高等教育機関を中心にこの取り組みが試験的に導入されている。一方で、タンデム学習はいまだ発展段階にあり、学習効果の検証とより効果的な実践・支援法の探索が必要である。

報告者は2008年より日本の大学キャンパス内での対面式タンデム学習、2010年からはドイツの大学と協働でEタンデムの実践と研究を行ってきた(脇坂, 2012; Wakisaka, 2018他)。実践・研究を通して、タンデム学習の参加者は多様な学習内容と方法を選択して学習を行っていることが明らかになった。また、タンデム学習には目標言語能力の向上や学習者オートノミーの発達、異文化コミュニケーション能力の向上、学習動機の維持・向上、母語や母文化理解の促進など、様々な効果があることが確認できた。一方で、学習者が2人だけで、長期間に渡って学習を効果的に継続するためには、適切な教育的サポートが必要であることもわかった。先行研究(Elstermann, 2016他)によると、多くの学習者は学習の初期段階には高い動機を持っているが、タンデム学習の可能性をどのように活用すればよいか、タンデム学習を成功させるために必要な学習者オートノミーや自己主導による自由な学習スタイルにどう向き合えばよいか分からないと言われている。Schwienhorst(2009)はタンデム学習の成功の鍵は学習者の自らの学習に対するリフレクションであると述べている。近年、ヨーロッパやブラジルなどでは、学習者のリフレクションを促すために、ポートフォリオや学習日記、Logbookなどが導入されるようになってきているが、その有効性は十分に解明されていない。

### 2. 研究の目的

そこで、本研究では以下のことを目的とした。

- 1) 日本語に関連するタンデム学習で使用できるLogbookアプリを開発することにより、学習者がより効果的にタンデム学習を行えるようにする。
- 2) 開発したLogbookアプリをEタンデムの実践に導入し、学習者の学びを考察することで、その効果を検証する。

### 3. 研究の方法

- 1) まず、以下の3つの調査をもとにLogbookの試作品を作成する。既存のLogbookを調査し、その内容をカテゴリーごとに分析する。授業の一環で対面式タンデム学習を行った日本語学習者が書いたポートフォリオを収集し、その内容と学習者の変化を分析する。ドイツ-日本でのEタンデムを実践し、学習者が書いたポートフォリオの内容を分析する。
- 2) 上記により作成した試作のLogbookをドイツ-日本でのEタンデムの実践で導入し、参加者がそれをどのように実際の学習で使用し、それが彼らの学びにどのように影響を与えたかを考察する。
- 3) 調査結果に基づいて、さらに修正を加えた上で、Logbookをウェブアプリ化する。
- 4) ドイツ-日本でのEタンデムの実践で、開発したLogbookアプリを導入し、参加者の学びを分析することにより、その効果を検証する。

### 4. 研究成果

(1) 授業の一環としてアドバイジングを行いながら対面式タンデム学習を行った学習者が書いた38のポートフォリオのデータを収集し、内容分析を行った。このうち、過去に言語交換学習でうまくいかなかった経験を持っていたにもかかわらずタンデム学習を効果的に活用できた日本語学習者Linさん(仮名)と中国語学習者Hanaさん(仮名)に焦点を当て、彼らのポートフォリオ(アドバイジングの際に使用した資料や、タンデム学習セッション中に書かれたメモ、セッションの準備に使用した資料、学習日記、学習期間終了後に振り返って書かれた自己評価を含む)を分析した。その結果、2人は以下のような点について、振り返りを深めていたことがわかった。

- 学習プロセス(目標設定、計画、振り返り、評価)

## 【1 研究目的、研究方法など(つづき)】

- 言語学習に関する知識(学習スタイル、リソース、言語能力の向上、単語の暗記)
- タンデム学習における訂正
- 感情・気持ち(動機づけ、不安、解決策)
- タンデム学習の有効活用
- パートナーとの関係(サポート、能力差の解消)

また、タンデム学習での一連の活動を通して、LinさんとHanaさんには以下のような変化が見られた。

- 明確な目標を設定することの重要性を認識するようになった
- 学習目標に基づいて学習内容や方法を決定し実行できるようになった
- 自分の不安をより客観的に検証し克服できるようになった
- 自分の好む学習スタイルをより意識的に用いるようになった
- 動機を高める方法を意識するようになった
- タンデム学習を通じて成長を実感した

本研究から、以下のような示唆が得られた。

- 1) タンデム学習におけるアドバイジングおよびポートフォリオの使用は、学習者の学習目標を明確にし、その目標に基づき何をどのように学ぶかを決定するのに役立つ。タンデム学習は学習者の自律性を原則とするため、学習者が自身の学習歴を振り返って学習目標を明確にし、その目標に基づいて思慮深く現実的な学習方法を決定することが極めて重要である。タンデム学習開始前に、学習目標に基づいた具体的な学習方法の決め方を学んだり、目標や学習方法に関するアイデアを他の学習者と共有したり、ポートフォリオを書くプロセスで自分の学習を振り返る機会を持つたりすることは有用であると考えられる。
- 2) 学習者がタンデム学習の改善に直結する課題を自ら考察し、クラスメートと共有し、ポートフォリオに記入することで、学習者のリフレクションを深めることができる。タンデム学習では、パートナーと一緒に学習する時間は、相手に意味内容を伝えることに集中するあまり、言語形式や学習方法に目を向けるのが難しくなる。アドバイジングで同じような経験を持つ他の学習者と話し合ったり、ポートフォリオに継続的に記録することを通して、学習者は自分のタンデム学習について深く振り返ることができる。そして、深いリフレクションを通して、学習者は自分の学習に主体的に取り組むようになり、タンデム学習を通じて成長できたと実感することができると思われる。
- 3) アドバイジングセッションやポートフォリオは、学習者が自らの目標に向かって進むための道標としての役割を果たす。タンデム学習には教師がいないため、学習者は自分の立てた目標や学び方が正しいのかどうか不安になることがある。そのような時に、アドバイジングやポートフォリオを通して、学習開始当初の学習目標に立ち返り、その時点での学びを深く振り返ることにより、学習内容や方法を調整する機会が持てる。また、アドバイザーが提供する言語学習に関する知識は、学習者が自らの学習方法を見直したり、自分の学習スタイルに気づいたりするのに役立つ。

(2) 本研究の最終的な成果として、タンデム学習における学習者のリフレクションを促すためのウェブアプリ「Logbook for Tandem」(<https://tandem-log.jugaa.jp>)を公開した(図1)。このアプリは日本語・英語・ドイツ語の3か国語で表示・入力でき、主に以下の3つの機能がついている。

学習目標の設定機能：タンデム学習を始める前に具体的な目標を設定し、アプリに入力することで、学習中に常に自分の学習目標を意識することができる。学習目標がパートナーと共有される仕組みになっているため、お互いに目標意識を共有し、サポートし合うことが容易になる。さらに、セッションごとに学習計画を記録しておくことで、セッションの準備に役立てることができる(図2)。

学習記録機能：学習者が各セッション後に自分の学習を振り返って評価し、記録するための機能。学習テーマと活動、タンデム学習についての自己評価、次のセッションに向けた計画を記録することができる。また、「新しく学んだこと」として、そのセッションで学習したことや、パートナーから教えてもらったことなどを忘れないように記録する機能もついている。写真や文書ファイルのアップロードもできるため、手書きで書いたノートをスマホで撮影して記録に残すなどの使い方も可能である(図3)。

学習内容の復習機能：各セッション終了後に記録した「新しく学んだこと」を一覧にして表示する機能。自分が学習した内容を、リストを見ながら復習することができる(図4)。

## 【1 研究目的、研究方法など(つづき)】

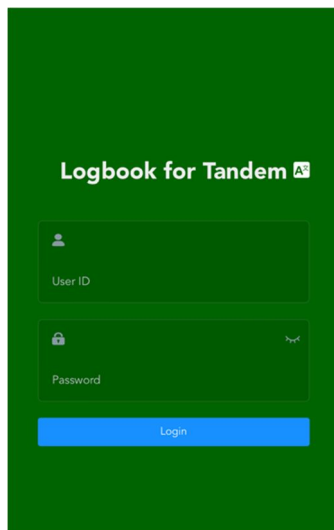


図1 Logbook app のログイン画面



図2 Logbook app 学習目標の設定機能

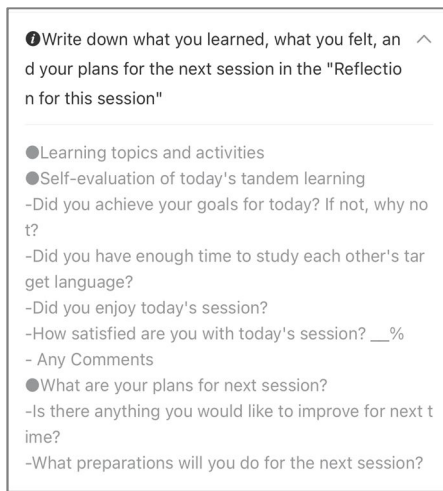


図3 Logbook app 学習記録機能



図4 Logbook app 学習内容の復習機能

(3) 開発した Logbook アプリをドイツ-日本での E タンデムの実践に導入し、2 回のプロジェクトを実施した。

- 1) ドイツ語学習者と日本語学習者の Logbook アプリの利用状況を分析した結果、Logbook の使用が、学習者がタンデム学習セッションの前に学習目標を設定し、学習後に自分の学習を振り返るといったサイクルを作るのに役立つことが示された。
- 2) 日本人ドイツ語学習者 Keita さん(仮名)の Logbook アプリへの入力内容と学習期間終了後の振り返りを分析した結果、彼が「ドイツ語でパートナーに質問する」ことを中心に、次のタンデムをより良いものにするためにリフレクションを深めていった様子が窺えた。彼は、ドイツ人日本語学習者であるパートナーと週に1回、8週間セッションを行った。学習開始時には「新聞の文化欄の記事をもとに、身近な話題について5分程度おしゃべりできるようになること」を目標にしたが、新聞の文化欄を読むのが難しいと気づき、ドイツの情報や文化について知りたいこと(例: ドイツで人気の小説、ドイツの祝日、人気の音楽、学校、書店、新年、2022年北京冬季五輪の注目スポーツ・選手など)について話し、パートナーに質問することにした。彼は毎週、E タンデム後に Logbook アプリに入力しており、学習内容に加え、セッション中の自分の感情や反省点、次のセッションに向けた改善策を書き留め、翌週のセッションでそれを活かした。初回のセッションでは、Keita さんはパートナーの話すドイツ語に分からないことがあってもそのまま会話を継続してしまっていたが、次のセッションではパートナーに分からないことを具体的に質問するようにし、3回目には、質問に加えてパートナーに日本の状況についても積極的に話すようにした。さらに、7回目のセッションでは、自分がこれまでより余裕を持って質問することができたことを実感した。また、最初はドイツ語を聞いたり理解したりすることが難しいと感じていたが、後半のセッションでは自分が立

## 【1 研究目的、研究方法など(つづき)】

てた各回の目標を達成することができるようになり、セッションを楽しめるようになった。そして、8回目のセッション後には、パートナーからドイツ語の上達を褒められたことや、パートナーが自分に合わせてゆっくりドイツ語を話してくれていることに気づいたことで、自らの成長を実感していた。このように、KeitaさんはLogbookアプリを使用して自分の学習についてのリフレクションを深め、学習者オートノミーを發揮してタンデム学習を行った。

課題として、KeitaさんのケースはLogbookアプリを使用した成功例であるため、今後は他の学習者についても見ていく必要がある。また、本研究を発展させ、現在、ドイツ-日本のEタンデムの実践に加え、中国-日本およびインド-日本でもLogbookアプリを導入したEタンデムの実践を開始している。今後は本研究の結果と比較しながら、他の場面で行われたEタンデムでのLogbookの使用実態を分析することにより、Logbookアプリをより汎用性のあるものにしていきたい。

タンデム学習の実践は国際化を推進する日本の教育現場で今後もますます広がっていくと考えられる。引き続き研究を進め、その成果を公開することで、効果的なタンデム学習の実践に向けたより良いサポート体制の構築に貢献できるよう努めていきたい。

## 【参考文献】

- Elstermann, A. K. (2016). *Learner support in telecollaboration: Peer group mediation in teletandem* (Unpublished doctoral dissertation). Ruhr-Universität Bochum, Germany.
- Little, D., & Brammerts, H. (Eds.). (1996). *A Guide to language learning in tandem via the internet*. CLCS Occasional Paper, no. 46. Dublin, Ireland: Trinity College, Center for Language and Communication Studies.
- Schwienhorst, K. (2009). The art of improvisation: Learner autonomy, the learner, and (computer-assisted) learning environments. In F. Kjisik, P. Voller, N. Aoki, & Y. Nakata (Eds.), *Mapping the terrain of learner autonomy: Learning environments, learning communities and identities* (pp. 86-117). Tampere University Press.
- Wakisaka, M. (2018). Face-to-face tandem and etandem: Differences that influence the maintenance of tandem learning activities. *REVISTA DO GEL*, 15, 42-57. doi: 10.21165/gel.v15i3.2408
- 脇坂真彩子 (2012) 「対面式タンデム学習の互惠性が学習者オートノミーを高めるプロセス：日本語学習者と英語学習者のケース・スタディ」『阪大日本語研究』 24, 75-101.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Wakisaka, M., Hayashi, T., Kitagawa, N., Wolanski, B., Harada, K., & Cai, Z.	4. 巻 1
2. 論文標題 The significance of tandem learning in a Japanese university	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JASAL Journal	6. 最初と最後の頁 104-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Masako Wakisaka	4. 巻 -
2. 論文標題 Learners' Development through Peer Group Advising in Face-to-Face Tandem Learning	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ILA 2021 Conference Proceedings	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Masako Wakisaka
2. 発表標題 Learners' Development through Language Learning Advising in Face-to-face Tandem Learning
3. 学会等名 Independent Learning Association Conference 2021（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 脇坂 真彩子
2. 発表標題 言語学習アドバイジングの理論と実践事例
3. 学会等名 言語学習アドバイジング講演会・ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Keisuke Harada, Natsuko Kitagawa, Bartosz Wolanski, Masako Wakisaka
2. 発表標題 The Tandem Learning Program in Kyushu University: Recent outcomes and future challenges
3. 学会等名 The Japan Association for Self-Access Learning (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>タンデム学習のガイドライン  <a href="https://isc.kyushu-u.ac.jp/center/tandem/about.html">https://isc.kyushu-u.ac.jp/center/tandem/about.html</a></p> <p>Logbook for Tandem  <a href="https://tandem-log.jugaa.jp">https://tandem-log.jugaa.jp</a></p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	シエルム モニカ  (SCHELM Monika)	Leibniz Universitaet Hannover	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------